

■ 2010年度就職状況

— 本学の就職決定率は95.9% —

2008年の金融危機に連鎖した世界的な不況の影響を受けた2009年度（2010年3月卒業生）に引き続き、2010年度の就職状況も非常に厳しく、本学学生も大変苦戦したようです。

2009年度に大卒求人倍率が1.62（リクルートワークス研究所調査）となり、就職氷河期の再来と言われましたが、2010年度は、さらに厳しい採用状況（大卒求人倍率1.28）となりました。

5月に発表された政府調査による大学の平均就職決定率は、過去最低だった1999年度（2000年3月卒業生）と同率の91.1%でしたが、本学では2009年度に実施した4年生対象の就職ガイダンスおよび合同企業説明会などの緊急支援策をさらに拡大して継続実施した結果、就職決定率が95.9%と全国平均を大きく上回りました。（右グラフ参照）

■ 個人面談件数が2年連続で大幅増加

キャリアセンターでは、個人面談の機会を捉えて、「人間力」の重要性についての学生の気付きを引き出すとともに、業界・企業選択の悩みなどについて個人の事情に応じたアドバイスを行っています。

面談を受ける学生は、就職に関する悩みや不安感を少なからず持っており、面談の延べ件数が下図の通り2年連続で大幅に増加したことは、学生の危機感の高さと就職活動の厳しさを表しているといえます。

年度	件数
2008年度	6,548件
2009年度	8,356件
2010年度	9,748件

■ OB・OG交流会の実施

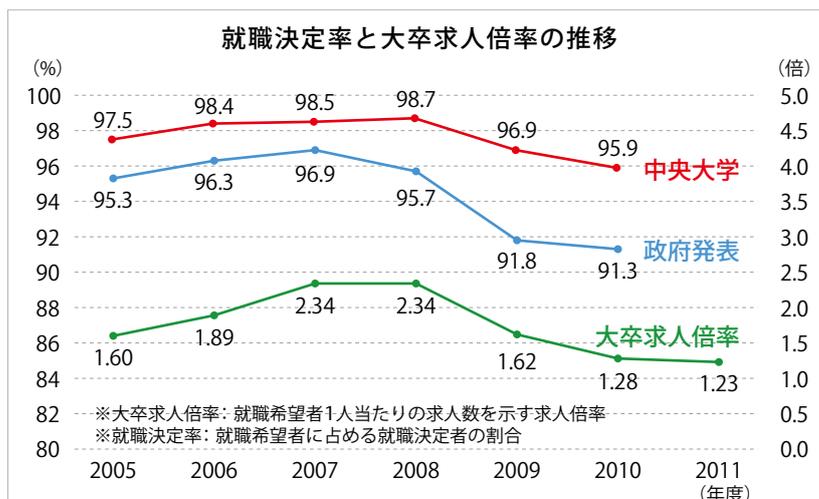
学员の方々には、キャリア支援と就職支援の各種プログラムへのご協力により、その根幹を支えていただいています。また、

南甲倶楽部には、インターンシップ、キャリア教育科目などで全面的な支援をいただいています。加えて、2011年度には、学生と企業で活躍する学员の方々との直接交流を目的とした「OB・OG交流会」にも協力いただくこととなりました。

■ 2011年度の就職状況見通し

リクルートワークス研究所の2012年3月卒業予定者の求人調査によると、民間企業の求人総数は前年比3.8%減の約56万人となり3年連続で減少しました。大卒求人倍率も0.05ポイント低下の1.23倍（グラフ参照）となり3年続けて下がっています。

今年度の就職活動も厳しさが続いていることを裏付ける数字ですが、本学としては、学员の方々の協力を得ながら、全力で学生支援に努める所存です。



グローバルビジネス就職セミナーの開催

キャリアセンターでは、昨年度よりグローバルビジネス就職セミナーを開催しています。海外「で」働くこと、海外「と」働くことを一線のビジネスマンの話聞きながら体感してもらおうという他大学にはない先進的な取り組みといえます。単に留学経験がある、英語が得意といった理由からではなく、今後の日本企業の必然としての海外展開を自らの仕事

として選択する意思を確認してもらった場の提供と考えています。

昨年は留学を通して日本と海外をつなぐ仕事をしている方や、アメリカの大学院を出て現地で働く商社マンといった英語が得意な方が登場する一方、日本国内でマーケティングを成功させ、その手法をアジアで展開している必ずしも英語が得意でない方などの体験談を聞きました。